

## 口永良部島の火山活動解説資料

福岡管区气象台  
火山監視・情報センター  
鹿児島地方气象台

< 噴火警戒レベル 3 (入山規制) が継続 >

本日 (6 日) 午後、気象庁機動調査班 (JMA-MOT) は国土交通省九州地方整備局の協力を得て、口永良部島上空からの調査を実施しました。その結果、新岳火口縁の南西側に 8 月 3 日の噴火に伴う新たな割れ目および、新岳火口の北側の一部がわずかに広がっていることを確認しました。

3 日の噴火以降、地震計や空振計の観測から噴火は発生していないと考えられます。

### 【防災上の警戒事項等】

新岳火口から概ね 2 km の範囲では、弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

また、火砕サージに注意してください。風下側では火山灰だけでなく、小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

降雨時には土石流の可能性がありますので注意してください。

### 活動概況

#### ・上空からの調査 (図 1 ~ 4)

本日 (6 日) 午後、気象庁機動調査班 (JMA-MOT) は国土交通省九州地方整備局の協力を得て、口永良部島上空からの調査を実施しました。その結果、新岳火口縁の南西側に 8 月 3 日の噴火に伴う新たな割れ目および、新岳火口の北側の一部がわずかに広がっていることを確認しました。

新岳火口東側の割れ目火口 (1980 年の噴火) および古岳火口は、これまでの調査と比べ、特段の変化は認められませんでした。

#### ・噴煙など表面現象の状況

8 月 3 日の噴火以降、地震計や空振計の観測から噴火は発生していないと考えられます。遠望カメラでの観測では、本日 (6 日) 白色の噴煙が火口縁上 800m まで上がり、北へ流れました。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.data.jma.go.jp/svd/vois/data/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『基盤地図情報 (縮尺レベル 25000)』、『基盤地図情報 10mメッシュ (標高)』、を使用しています (承認番号: 平 23 情使、第 467 号)。



図 1 口永良部島 新岳火口付近の状況  
上図 2014 年 8 月 6 日 14 時 18 分  
下図 2011 年 12 月 19 日 12 時 58 分  
新岳火口縁の南西側に 8 月 3 日の噴火に伴う新たな割れ目を確認しました（赤破線内）。



図 2 口永良部島 新岳火口付近の状況  
上図 2014 年 8 月 6 日 14 時 16 分  
下図 2011 年 12 月 19 日 12 時 56 分  
新岳火口の北側の一部がわずかに広がっていました（赤破線内）。



図3 口永良部島 古岳火口の状況（2014年8月6日14時29分）  
これまでの調査と比べ、古岳火口内の状況には、特段の変化は認められませんでした。

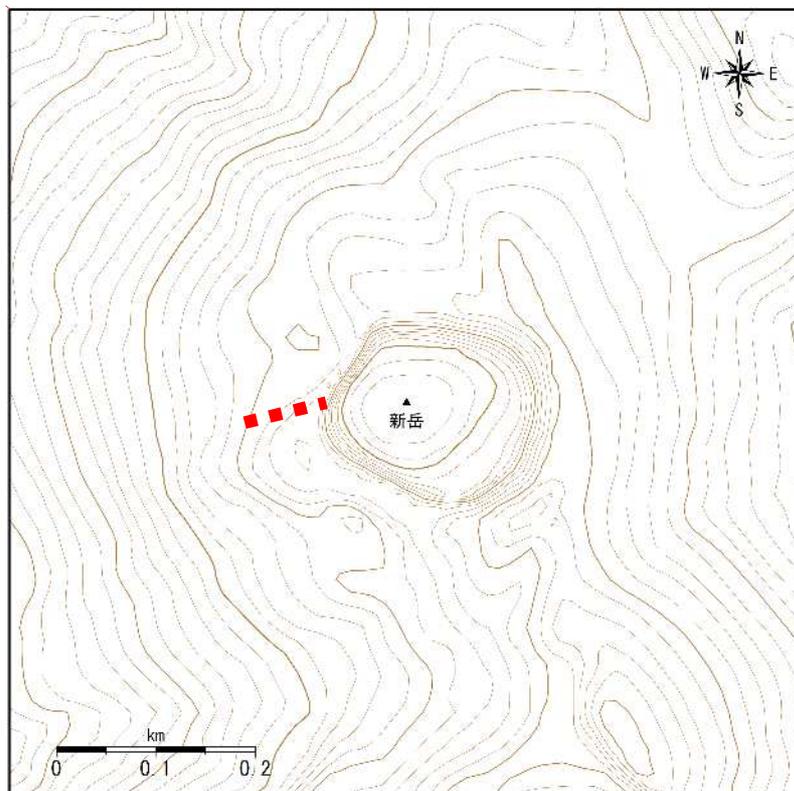
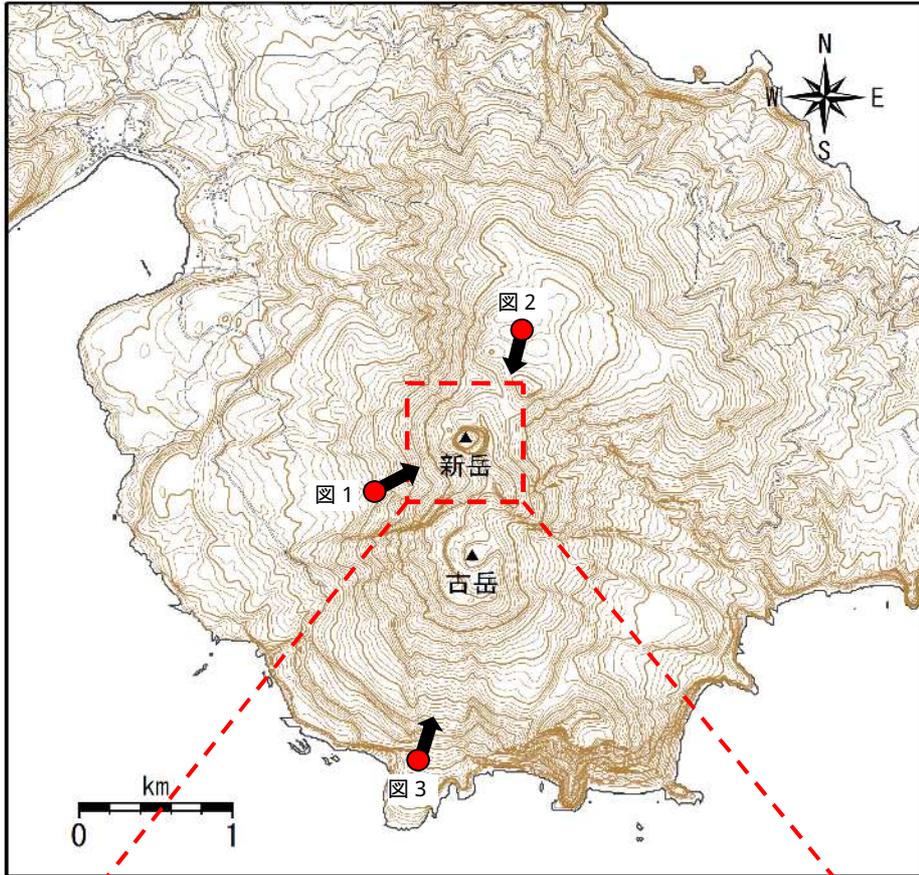


図4 口永良部島 写真の撮影位置及び新たな割れ目の位置（赤破線）